

日本協同組合学会 Newsletter

Vol. 33 No. 3(通巻 90 号)
2021 年 12 月 15 日

～第 21 期ごあいさつ号～

発行 日本協同組合学会 責任編集 会長 北川太一
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 11 番地 飯田橋レインボービル 5 階
一般社団法人日本協同組合連携機構内 日本協同組合学会事務局
TEL:03-6280-7254 FAX:03-3268-8761
E-mail:kyodo-gakkai@japan.coop
ホームページ: <http://www.coopstudies.com/>

第 21 期会長あいさつ

会長就任にあたって ー学会の持続可能性を高めるためにー

第 21 期会長 (摂南大学農学部) 北川 太一

このたび、第 21 期の会長を務めることになりました。ふり返れば、本学会では大学院生時代から研究発表の場として鍛えられるとともに、秋大会の開催、常任理事や副会長を務める機会が得られました。こうした経験は、異分野の方々との交流を生み、研究面だけではなく大学の教育や運営に携わるうえでも、私にとって大きな糧となっています。正直、会長に就くのは思いもかけないことでしたが、幸い次項で記載していますように、副会長をはじめ各担当に相応しい常任理事の方々に就いていただくことができました。これから 2 年間、精一杯取り組む所存です。どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、言うまでもなく本学会は、協同組合に関心を持つ研究者と実践家の集まりです。学会活動を通じて、一人の力ではできないことが実現できる、学会に関与することにより研究や実践・運動の方向性が見えてくることが重要です。こうした学会の役割を発揮するために、さしあたり次の 2 点を重視したいと考えます。

第一は、「協同組合論」から「協同組合学」への深化をめざすことです。そのためには、年に 2 回開催される大会を中心に、協同組合共通の課題を科学的に掘り下げて解決の方向性を見出し、協同のネットワークが構築された社会のありようを描いていくこと、と同時に、種別ごとの協同組合の特性や現状について、皆が共有することが必要でしょう。

幸い、JCA (日本協同組合連携機構) の設立によって協同組合間の連携が進みつつあり、労働者協同組合法の成立によって新しい協同組合が生まれる可能性が広がりました。しかしその一方で、まだまだ種別の組織の枠組みを超えたコミュニケーションは不足しているように感じます。実践家の方々のお力も借りながら、協同組合ごとの議論を行う場を積極的に作っていきたいと考えます。

第二は、学会の役割を積極的に果たすための効率的かつ弾力的な運営です。幸い、先代の方々のご努力、特にコロナ禍の下で対面の運営ができない状況にありながら、前期の増田会長をはじめとする関係の方々のご努力で規定類が整備され、運営の基盤が整いつつあります。規定に則りながら効率的な会議の開催と適切な意思決定を行い、時には積極的な予算措置も講じながら弾力的な運営をはかります。

以上のこととも関連して別項で記載していますように、小関副会長をリーダーとして、前期からの引継ぎ事項である会員管理システムの更新、ならびに学会誌の公開・PDF化について検討しているところです。適宜、会員の皆さまにも状況をおつなぎしながら進めていきます。

この秋、本学会は設立 40 年を経過して新しい時代へのスタートを切りました。学会の持続可能性を高めるためには、より多くの人に協同組合の社会的役割をアピールし、協同組合研究の面白さを伝えていくこと。次代を担う中堅・若手の方々の方々の参画の場を作りながら、未来への襷（たすき）を繋いでいくことが必要です。ご理解とご協力の程、どうかよろしくお願い申し上げます。

日本協同組合学会第 41 回大会を終えて

大会実行委員会 実行委員長
東京農業大学 木原高治

日本協同組合学会第 41 回秋季大会は、2021 年 9 月 18 日(土)・19 日(日)の両日にわたり、『協同組合運動 新たな段階へーレイドロー報告 40 年、学会創立 40 年、アイデンティティ声明 25 年を経て、GAF A 支配に対抗するアフターコロナ時代の協同を考えるー』を共通論題として、東京農業大学に所属する会員がその運営を担当し、いわゆるオンラインによる方法にて開催されました。

東京農業大学では、1985 年 10 月に『協同組合制度をめぐる諸問題』を共通論題とする第 5 回秋季大会、2000 年 10 月に『21 世紀における協同組合の組織・事業・経営ー学会 20 年の議論をふまえてー』を共通論題とする第 20 回大会、そして 2010 年 5 月に『レイドロー報告 30 年 協同組合運動におけるその意義と現代性』を共通論題とする第 29 回春季大会を、それぞれ幹事校として開催いたしております。今回の大会は、第 29 回春季大会以来、約 10 年ぶりの開催となりますが、振り返ってみますと本学が担当した回は、奇しくも学会創立 20 年、40 年、さらに『レイドロー報告』30 年、40 年に関わっており、日本協同組合学会と本学との只ならぬ因果を感じております。本学の若い学会会員諸氏には怒られるかもしれませんが、おそらく次は約 10 年後、学会創立 50 年あるいは『レイドロー報告』50 年を記念する大会あたりの担当が当たるのではと思っております。

さて冗談は置きまして、今回の学会大会運営に際しまして、学会会長の増田先生、シンポジ

ウム座長の高先生はじめ、シンポジウムや個別報告、そしてテーマセッションに関わられた先生方に改めて御礼を申し上げます。シンポジウムでは、報告者の北川先生、中野先生、瀬戸先生、コメンテーターの松本先生、阿高先生のご報告をお聞きし、協同という観点で見た現代社会の問題点を再認識させていただくとともに、みなさん本音で語っていただいた点に共感を覚え、本学会のすばらしさを改めて感じました。また、テーマセッションでは本学会を支えてこられた重鎮の先生方のお話に、学問の重みを感じることに頻りでした。加えて、個人的には、初めて学会役員を務めた時の会長だった横川先生、ご無沙汰続きの白石先生、憧れの関先生などのお顔が映し出され、感激と懐かしさを感じる大会でした。

ところで、今回はオンライン開催のため私のようなロートルは全く役に立たず、ただただ足手まといにならないようにしてはいましたが、その分、事務局長の野口先生はじめ若手の先生方に多大なご尽力をしていただきました。また、懇親会では、五條先生が見事な語り口で、オンライン開催を忘れるリアリティある大学紹介をしてくださいました。手前みそではございますが、本学の運営スタッフにもこの場をお借りして改めて感謝したいと思います。

最後になりますが、日本協同組合学会の更なる発展と会員諸氏のご健勝をお祈り申し上げて、大会委員長からの報告に代えさせていただきます。

韓国協同組合学会からのご挨拶

韓国協同組合学会 会長
張承權(チャン・スングォン)

第41回日本協同組合学会大会の開催と学会創立40周年をお祝い申し上げます。韓国協同組合学会も2022年に創立40周年を迎えることとなります。これまで両国の協同組合学会が協力して発展を遂げて参りました。今後も緊密に交流と協力を重ねて協同組合の研究成果を共有し、研究者が共に研究できることを願います。

韓国協同組合学会は2021年7月2日、光州広域市において社会的経済分野の学会である韓国社会的企業学会、韓国非営利学会とともに「社会的経済組織の価値創出」というテーマで社会的経済統合学術大会を対面とオンラインで開催いたしました。そして、同年7月9日には韓国協同組合学会にて夏季学術大会を開催し、「韓国協同組合のアイデンティティ強化」というテーマで発表および討論を行いました。また、同年10月29日には秋季学術大会が開催される予定です。現在の事情を鑑みますと、オンラインでの学術大会開催とならざるを得ない状況でございます。皆様もご存じのように、同年11月28日から30日までの3日間、ICA Global Research Conference と Law Forum がソウルにて開催されます。本学術大会は、第33回 ICA World Cooperative Congress、世界協同組合大会の事前行事となります。COVID-19のため対面とオンラインでの発表と討論を交えた学術大会を企画し準備が進められております。韓国協

同組合学会もソウル大会の準備に携わっており、学術大会の運営委員会に学会長である私を含め、多くの学会員が参加しております。今回の ICA 世界協同組合大会と学術イベントのテーマは、「協同組合のアイデンティティに深みを加える (Deepening Cooperative Identity)」です。新しい時代において協同組合が進むべき道を模索する上で、協同組合のアイデンティティがどれほど重要なのか、そしてどのようにアイデンティティを強化していくのかについて討論が行われる予定です。今、私たちが直面している困難を協同組合がどのように克服し、新しいビジョンや実践を提示出来るのかが重要です。これを協同組合のアイデンティティ強化というテーマで討論し、その成果を共有して今後のビジョンを描いていくことは、協同組合研究者と教育者の皆に求められる責務です。

同年 11 月末にソウルで開かれる ICA Global Research Conference ならびに Law Forum で日本協同組合学会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。そして、今後も日本と韓国における協同組合の研究と教育分野において、さらに多くの交流と協力がなされることを願います。改めまして、日本協同組合学会第 41 回大会のご成功を祈念いたします。あわせて日本協同組合学会会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございます。

(2021 年 9 月 18 日)

2022 年度春季研究大会および秋季大会の開催予定

※大会プログラム等の詳細は、次回以降のニュースレターでお知らせするとともに、適宜HPにアップします。

●第 40 回春季研究大会

2022 年 5 月 28 日 (土) 開催：京都大学 (会場未定)

※対面で実施予定 (新型コロナウイルスの感染が拡大した場合にはオンラインで実施)

※総会を開催

※第 21 期第 2 回理事会を開催

●第 42 回秋季大会

2022 年 9～10 月実施予定 開催：新潟大学

2021 年度学会賞「実践賞」について

2021 年度は、学会賞 (実践賞) の応募がなく、該当団体はありません。

日本協同組合学会第 21 期理事・監事一覧

地 区	氏 名・所 属	役 割
北海道	多木 誠一郎(小樽商科大学)	常任理事(国際・企画)
	糸山 健介(酪農学園大学)	
	小林 国之(北海道大学)	
東北	小山 良太(福島大学)	副会長(企画・学会賞)
	冬木 勝仁(東北大学)	
	成田 拓未(弘前大学)	常任理事(編集)
関東甲信越	伊藤 亮司(新潟大学)	
	高橋 巖(日本大学)	
	片上 敏喜(日本大学)	常任理事(編集・総務)
	井上 浩子(神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会)	副会長(国際・編集)
	久保田 裕美(日本大学)	
東京	上田 晶子(JA共済総合研究所)	常任理事(編集)
	三浦 一浩(生協総合研究所)	常任理事(編集)
	野口 敬夫(東京農業大学)	常任理事(企画・総務)
	小関 隆志(明治大学)	副会長(総務・デジタル化)
	伊丹 謙太郎(法政大学)	常任理事(編集・総務)
	河村 浩史(全国漁業協同組合連合会)	常任理事(企画)
	利根川 徳(協同総合研究所)	常任理事(企画)
	藤井 晶啓(日本協同組合連携機構)	常任理事(企画)
	伊藤 治郎(日本生活協同組合連合会)	常任理事(企画)
	重頭 ユカリ(農林中金総合研究所)	常任理事(総務・企画)
	岡田 太(日本大学)	常任理事(企画)
東海北陸	安藤 信雄(中部学院大学)	
	青木 雅生(三重大学)	
	堀井 真理生(福井県中小企業団体中央会)	
近畿	北川 太一(摂南大学)	会長(会務全般)
	加賀美 太記(阪南大学)	
	副島 久実(摂南大学)	
	仙田 徹志(京都大学)	
中国四国	板橋 衛(愛媛大学)	
	橋本 直史(徳島大学)	
	段野 聡子(徳島大学)	

九州沖縄	渡辺 克司(鹿児島国際大学)	
	高畑 明尚(琉球大学)	
会長推薦	※大会開催地等を決定のうえ、後日推薦する	
監事	中村 久子(ワーカーズ・コレクティブ協会)	
	岡本 一郎(大学生協)	

第 20 期第 6 回理事会報告

第 20 期第 6 回理事会 (2021 年 9 月 17 日) 議事概要は以下の通りです。

1. 協議・報告事項

- (1) 第 21 期理事・監事候補者について「日本協同組合学会第 21 期理事・監事候補者名簿」を 2021 年 9 月 18 日開催の臨時総会に提案することが確認された。
- (2) 学会賞「実践賞」の応募がないことが確認された。

臨時総会報告

臨時総会 (2021 年 9 月 18 日) 議事概要は以下のとおりです。

1. 協議・報告事項

- (1) 第 21 期理事・監事について「日本協同組合学会第 21 期理事・監事名簿」の通り選出された。
- (2) その他
学会賞「実践賞」表彰について応募がなく該当団体のないことが報告された。

第 21 期第 1 回理事会報告

第 21 期第 1 回理事会 (2021 年 9 月 18 日) 議事概要は以下の通りです。

1. 協議・報告事項

臨時総会において決定された「日本協同組合学会第 21 期理事・監事名簿」に基づき、会長、副会長および常任理事が選出された。

第 21 期第 1 回常任理事会報告

第 21 期第 1 回常任理事会（2021 年 11 月 15 日）議事概要は以下のとおりです。

1. 21 期 常任理事の役割分担について

- 各理事の役割について確認した。会長指名理事は大会開催校との関連で追加して指名する可能性がある。

2. 各担当からの報告・協議

企画・学会賞

- 2022 年春大会（開催地と体制、日時、内容）、2022 年秋大会（開催地、基本方針など）、新理論研究会の開催、学会賞（学術賞、奨励賞、実践賞）の募集・推薦方法を議論。
- 第 20 期の総会について春大会では会長からの講演があったことから、今回の春大会も北川会長からの講演を検討することとなった。

編集

- 学会誌の編集・発行状況、学会誌賞の選定スケジュールについて議論した。

国際

- 韓国の協同組合学会には、当学会の新体制の連絡と大会日程等を連携することが提案された。

広報・NL

- Web サイトの検討状況、ニュースレター（以下 NL）の発行スケジュール・掲載内容の説明があった。
- メーリングリスト（以下 ML）の協同組合学会の ML 対応に関する前期までの検討経過と運用状況の報告があった。ML の運用をめぐって協議した。

総務・デジタル化

(1) 会員管理システムの変更

- 会員管理システムの変更の必要性および見積の比較について説明があった。クラウド系のシステムへの変更が有用である旨が説明され、「学会バンク」に試行的に変更することが提案された。
- 個人情報管理の観点からは、セキュリティの問題もあることから、会員情報を「学会バンク」に渡すことについて理事会などの決定機関で了解を取るべきではないか？との意見があった。
- 原則として、提案のとおりで、会員管理システムの変更について了承された。なお、全理事には情報を提供することが必要である旨の意見があった。

(2) 学会誌のデジタル化（公開）

- 学会誌のデジタル化・公開について資料に基づき検討経過が報告され、学会の Web サイトへの全文公開（一部の閲覧を会員限定に制限）、J-Stage への XML 形式での公開および同作業の外部委託、同掲載範囲について意見が求められた。

- 公開範囲は 2005 年以降とする。
- J-Stage への公開部分は論文等（大会報告、論文、書評等）に限定する。
公開は1年半のタイムラグを置く。
- 学会誌の公開については提案のとおりでよい旨で各理事から了承された。
ただし、学会誌公開は予算がかかるため、理事会、会員総会を経る必要があるため、来年度の予算案に示し春大会の総会で議決により決定する。

総務（事務局）

- 会員の異動および会費の納入状況、財務状況について説明があった。
 - 会員の会費納入状況を説明のうえ、各理事より会費支払いを促すよう依頼した。
- ### 3. 年間スケジュールについて
- 年間スケジュールの説明があった。

会員管理システムの更新について

本学会の会員情報管理システムは現在、株式会社日本科学技術研修所（日科技研）が本学会用に開発したシステムを使用していますが、耐用年数を過ぎ、事務局は“だましまし”使用し続けている状態で、システムの更新の必要性がかねてより認識されていました。また、現在のシステムでは会員情報の変更や会費の支払状況を事務局が全て手入力する必要があり、その膨大な作業負担も課題となっていました。

本学会の会員数や予算規模からすれば、再度独自のシステム開発に費用をかける余裕や必然性はありません。むしろ近年では、クラウド型の会員管理システムが極めて廉価で提供されるようになってきました。クラウド型の会員管理システムを利用すれば、会員自身が住所移転等の変更を入力することができ、会費支払状況も自動的にシステム上に反映され、領収証も自動的に発行できるため、事務局の作業負担は大幅に削減されます。実際、クラウド型のシステムを利用する学会も増えてきているようです。

もっとも、会員の個人情報を扱うものですので、セキュリティの確保が最優先されることは言うまでもありません。リスク管理に十分配慮しながら、2022年4月に、会員情報管理システムをクラウド型に移行することを常任理事会で検討しています。詳細が決まり次第改めてご案内しますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

学会誌の公開および PDF 化について

本学会の学会誌『協同組合研究』は、今年12月で通巻109号を数えます。創刊号以降の学会誌の総目次が、学会ウェブサイトに掲載されましたので、ぜひご覧ください。

次年度には、学会誌の本文を公開する事業を、常任理事会で検討しています（来年の総会にて、事業計画・予算案を提示します）。その方法は以下の2種類あります。

第1は、J-Stageに、学会誌に掲載された個々の報告や論文のPDFファイルを公開するというものです。J-Stageに公開することにより、多くの人がキーワードで論文を検索したときに学会誌の論文を見つけやすくなります。

第2は、1冊丸ごと1つのPDFファイルにして、学会のウェブサイトに公開するというものです。特に大会特集の場合、座長の解題、報告、コメント、まとめといった一連の流れを理解するには、J-Stageだけでは不十分です。

また、創刊号以降の学会誌バックナンバーを全てPDF化して、会員限定で閲覧可能にすることも計画中です。ぜひご期待ください。

グローバルゼーションと協同組合部会からのお知らせ

グローバルゼーションと協同組合部会では、当学会のこれまでの意見表明を受け、その後のグローバルゼーションの進行が、私たちの暮らしや命にどのような影響をもたらしているのか、学習を深める目的で、下記の研究会を企画しました。

日時 時間：2022年1月10日 月曜日 午後1時30分～ 2時間程度 オンライン
ミーティング情報 Zoom ミーティングに参加する
<https://us02web.zoom.us/j/86702467802?pwd=NDhHbmsrS1MvT2NVZ2ZwY0o4ND1jQT09>
ミーティング ID: 867 0246 7802
パスワード: 830997

内容

第1報告 関 英昭会員「種子条例の比較」…2018年に種子法が廃止された。そのため、各都道府県は種子法に代わる条例を定めることになった。自治体により内容が異なるので、主要な条例の比較検討が必要である。旧種子法及び改正種苗法との比較も必要となろう。

第2報告 藤木千草会員「『栃木県奨励品種の優良な種苗の安定供給に関する条例』（2020年4月1日施行）が制定された背景と影響～県の担当職員へのヒヤリングより」

第3報告 田中陽子会員「2021年5月に農水省から発表された『みどりの食料システム戦略』と世界的な動向」

第4報告 田中夏子会員「グローバルゼーションと協同組合に関わる資料紹介」

女性と協同組合研究部会からのお知らせ

女性と協同組合研究部会では、この間社会的問題と女性との関連をテーマにしてきました。女性職員、若者の自立、生活の協同、貧困問題、それぞれのテーマにおける協同組合との関係や位置づけをジェンダー問題に絡めて意見交換を行ってきました。先達の歩みを伺う講演会をした際、80歳になられるその方以降、連合会常勤理事になられた事例はないという事実で改めて衝撃を受けました。

世界経済フォーラムによる「ジェンダー・ギャップ指数 2021」では、日本は156カ国中120位、政治面では147位となっており、夫婦別姓、家族のあり方、クォーター制さまざまな側面で女性の生きづらい社会となっています。コロナ禍では若い女性の自死が増加しているのもその反映と言えます。くらしの課題に対応するのが協同組合ですが、こうした問題にどのように関わってきたのか今一度原点に戻り考える時期ではないでしょうか。今年度は問題意識の整理と今後に向けた方向性を検討するためのワークショップ等、On-lineを活用しながら広く議論をしたいと考えています。

基礎文献紹介（酪農学園大学 糸山健介）

賀川豊彦の生涯に触れて、協同組合を見つめ直す

学会から協同組合の初学者向けの文献紹介の依頼があった。そこで本棚に向かってみたが、ピンとくる本がない。ゼミで使用した本を手にとってみても、国による農協改革への批判が出版の背景にあり、そこまで説明すると初学者レベルを超えてしまう。初学者向けというのが代えて難題ではないかと悩んでいたときに、ふと閃いたのがこの本書である。

『死線を越えて』は、賀川豊彦が著した自伝的小説で、当時ベストセラーになったほどの著書である。しかし、本書は賀川豊彦の生涯をコンパクトにまとめた劇画（≒漫画）で、目を通しやすいのはもちろんのこと、協同組合の入り口に立つ人にとって賀川豊彦は把握しておくべき人物ということができる。

静かなる革命の協同組合

本書をかいつまんで説明すると、賀川豊彦は1888年生まれに敬虔なキリスト教信者で、神戸のスラム街に居住して貧しい人々の救済事業を行っていた。ところが、アメリカ留学中に労働者によるデモ行進を目撃して、貧困問題を解消するには防貧対策が必要であると考えようになる。そして日本に戻ってくると、労働運動を精力的に支援するとともに、地位向上のための普通選挙権運動も展開する。

その傍らで静かなる革命として取り組んだのが協同組合運動である。暴力や示威行為に頼らず、徐々に生活に浸透することから静かなる革命とされ、まず消費組合の設立から関わっていく。大阪の共益社は賀川本人が設立した消費組合であり、コープこうべの前身である神戸生協と灘生協の設立にも大きく関与している。第二次世界大戦後には、敗戦から立ち直るために日本協同組合同盟を発足させ、それが後に日本生活協同組合連合会へと受け継がれていくのである。

しかし、消費組合を設立しても、スラムへの流入は跡を絶たず、元凶となっていた農村問題にも関与する。そのなかでの協同組合運動としては、安価な医療費を実現するための医療利用組合（後に医療生協）をモデルケースとして東京に設立している。また、安価であっても大きな手術ともなれば高額となることから、産業組合による協同組合保険の実現を目指し、保険会社を買収して共栄火災海上保険株式会社の設立に至る。

様々な視点から接近可能

このような業績から、賀川豊彦は生協の父、JA 共済の父、協同組合運動の父と、様々な生みの親になっている。換言すれば、日本協同組合の父とも呼べる賀川豊彦が、どのような過程を経て協同組合の設立に関わっていったのかを、概略ながら簡便に理解するには本書が適していると考えられる。また、協同組合間協同が ICA 原則となる以前に賀川は体現していたことや、株式会社を傘下に置き協同組合を実現する手法は、初学者ならずとも考えさせられるところであり、様々な視点から読み返すことができるのも本書の魅力といえよう。

『劇画 死線を越えて－賀川豊彦がめざした愛と協同の社会－』家の光協会，2009年11月，1,143円＋税



限定会員情報の提供

2019年5月24日の理事会で制定された「日本協同組合学会会員情報ならびに会員名簿の取扱い等に関する内規」にもとづき、このたび「日本協同組合学会 限定会員情報」をお送りいたします。

2022 年度学会賞(「学術賞」「奨励賞」「実践賞」)の推薦について

- 推薦締め切り期日：「学術賞」、「奨励賞」は2022年2月末、「実践賞」は2022年6月末。
- 推薦対象（詳細は、「学会賞表彰規程」「同細則」をご覧ください）
 - 学術賞：本学会に5年以上継続して所属している会員。同じ条件を満たす共同研究グループが受賞者となる場合は、賞の名称を「共同研究学術賞」とする。
 - 奨励賞：本学会に3年以上継続して所属する40歳未満の会員。
 - ※学術賞、奨励賞は、2021年12月末日に至る3年間（2017年～2019年）に刊行された著書、論文、またはそれに準ずるもので、共同研究（共著論文）、シリーズ論文、翻訳書及び研究資料（いずれも優れた解題論文を含むもの）も選考の対象となる。
 - 実践賞：協同組合の発展に貢献し得る優れた実践及びその記録。
- 推薦方法：2名以上の本会普通会員の連名による推薦を得る。選考対象の研究業績の現物、著者または代表者の業績一覧及び履歴書各1部を添えて推薦状を提出する。推薦する場合には、学会事務局に連絡のうえ、所定の推薦書様式を入手して下さい。

会員メーリングリストへの登録のおさそい

当学会では、会員間の情報交換、学会からのお知らせ等のためのメーリングリストを開設しております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、
kyodo-gakkai@japan.coop へご連絡ください。

会費納入のお願い

学会の研究活動促進のためにも、会費未納の方は速やかに納入していただくことをお願い致します。会費は年6,000円、学生会員は3,000円です。ご不明な点がございましたら、事務局へお問い合わせください。

郵便振替 加入者名：日本協同組合学会 口座番号：00140-5-557520
ゆうちょ銀行 ○一九支店 日本協同組合学会 当座 口座番号：0557520

☆インターネットバンキング等をご利用の会員の方はゆうちょ銀行からお振り込みが可能です。

★ 会則第6条により、会費を3年以上滞納すると会員の資格を失うこととなりますので、ご留意ください。